

航空機騒音の環境基準の達成状況の改善に向けた施策等ロードマップ (1/2)

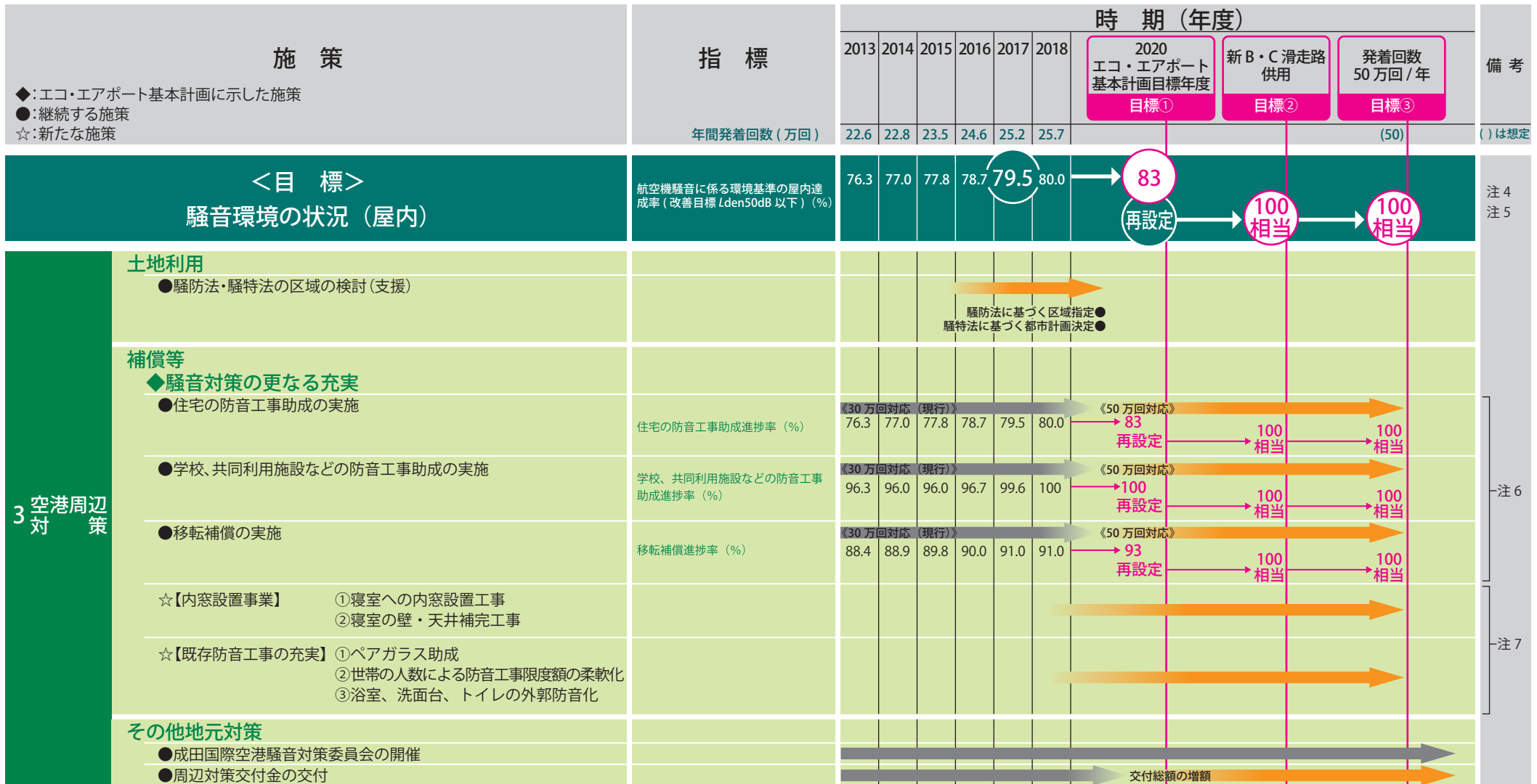
※施策や目標等は、進捗を踏まえ必要に応じて見直しを行う。

施策	指標	時期(年度)										備考			
		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2020 エコ・エアポート 基本計画目標年度 目標①	新B・C滑走路 供用 目標②	発着回数 50万回/年 目標③					
◆:エコ・エアポート基本計画に示した施策 ●:継続する施策 ☆:新たな施策	年間発着回数(万回)	22.6	22.8	23.5	24.6	25.2	25.7						(50)	()は想定	
<目標> 騒音環境の状況(屋外)	環境基準の類型指定面積に対する達成範囲の割合(Ⅰ類型 Lden57dB以下)(%)	85.9	86.3	87.0	87.2	87.4	87.7	88					88以上	注1 注2	
	常時測定局での環境基準達成率(%)	61.3	62.6	67.4	62.0	65.2	66.7								
1 発生源対策	機材改良 ◆低騒音型航空機の導入促進 ●騒音INDEXに基づく国際線着陸料金制度の実施 ☆環境に配慮した航空機の導入促進に係る検討	低騒音型航空機導入率(%)	86.4	87.6	90.7 基準年度	92.2	93.0	92.8	93.7 +3.7ポイント					改善	
	発着規制 ●夜間の離着陸制限(カーフェュー)の実施 ☆【深夜・早朝対策】「スライド運用」の実施 ☆【深夜・早朝対策】運航機材の制限									23時~翌6時	0~6時(注3)		0時半~5時		注3
	運航方法の改善 ◆航空機騒音のモニタリングと結果公表の充実 ●飛行コースの監視、騒音測定 ●地域相談センター等での環境情報公開 ●インターネットでの環境情報公開 ☆環境情報公開サイト「成田空港環境こみゆにてい」の更なる充実														
	(その他の施策) ●騒音軽減運航方式(急上昇方式の採用等) ☆リバーススラスト(逆噴射装置)の制限 ☆CDO(Continuous Descent Operations:連続降下方式)														
2 空港構造の改良	地上騒音対策 ◆補助動力装置(APU)の使用抑制と地上動力装置(GPU)の使用促進 ●運用管理細則に基づくAPU利用制限の実施 ●GPU能力増強(新型機への対応) (エンジン試運転対策) ●エンジン試運転に係るNRH(ノイズリダクションハンガー)使用促進	固定スポットでのフルサービスキャリアのGPU使用率(%)	91.2	89.3	90.3	90.8	92.7	89.9	90以上維持					維持	
		NRH使用率(%)	92.2	93.9	93.2	94.0	94.7	94.6						100	
	技術革新等に伴う新たな航空機騒音対策の検討及び実施														
	●防音堤・防音壁等整備														
	●エプロン・誘導路・ターミナルの配置改良														

注1 現在までの値は運航実績に基づく騒音コンター(再現計算)面積との対比。目標①は、2013~2017年度の改善傾向が継続すると想定して設定。目標③は騒音コンター(予測)面積との対比。ただし、コンターのうち海上、類型指定範囲外に及ぶ部分は評価対象外。
 注2 類型指定状況は2018年現在のもので算出(過去、2020年度)。50万回時は稲敷市全域が対象となっていると仮定。
 注3 C滑走路供用開始までの当面の運用として、A滑走路は0時~6時、B滑走路は23時~翌6時(現況どおり)。

航空機騒音の環境基準の達成状況の改善に向けた施策等ロードマップ (2/2)

※施策や目標等は、進捗を踏まえ必要に応じて見直しを行う。



注4 防音工事実施により屋内で50dB以下を達成し得ることから、騒防法指定区域内での住宅の防音工事助成進捗率と同じとする。目標①は、2013~2017年度の改善傾向が継続すると想定して設定。

注5 移転等により対象家屋数が減少する場合があるため、目標年における実施可能な数を100%相当とし、その達成を目指す。

注6 2020年度の進捗率は、2013~2017年度の改善傾向が継続すると想定して設定。

注7 2018年10月よりA滑走路側において先行実施。